
人間地獄

カフ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人間地獄

【Nコード】

N3078I

【作者名】

カフ

【あらすじ】

世界規模での人口調節の結果いらない人間と判断されたものは太平洋の真ん中に落とされる。
主人公の僕は知らない人間と判断され太平洋の真ん中におとされるのだった。

第一

へりの羽が無造作に風を切る音がやけに耳障りだった。手錠に振動がつたわりプラプラ揺れていたのを記憶している。

僕は襲い来る恐怖から気を紛らわせるために外を見た。見渡すかぎり青い海だった。しかしそれもあと少し、もう少しでこの青い海は終わるのだ。そう思っているとちょうど水平線の彼方から海の色が変わりだしたのが見えた。青と肌色が混ざり合いそこに赤を足したような色だ。そしてまたしばらくいくと今度はそこに棒が無造作に立ち並んでいるのが見えた。よく見るとそれは人だった。服をまわず裸で立ち泳ぎしている。

「なるほど、これはまさに人間地獄だ……」僕はそう思った。

なんでも人間が生き残るためには徹底された人口調整が必要らしく世界規模での人口調節が行われた。それは、世界中の人間を綿密に調べ上げた結果いらないと判断された人間は太平洋のど真ん中に捨てられるというものだった。

これに対してももちろん物議が醸し出されたがその思想、意見を政府は丁寧の一つ一つ潰した。人類の存亡をかけ政府も必死なのだ。

こうしてこの行為に対して反論するものはいなくなり、いつしか太平洋の真ん中は人間地獄と化したのだ。

へりはちょうどその地獄の真上に位置するところで止まり。僕は政府の人間に手錠を外され服を脱ぐよう命じられ、それに従い裸になった。へりの扉が開き鼻が曲がりそうな異臭が漂ってきた。『いまからこの下に落ちるのか』そう思うと僕は足がすくみ飛び込むことが出来なかった。しかしそんな僕などお構いなしに政府の人間は僕の背中を押した。

第二

僕の体は宙に放り出され、そのまま異臭をはなつ海へと落ちた。勢いよく頭まで海水につかり鼻や口からドロドロした物が入ってきた。僕は必死でもがき海面に出てドロドロを吐き出した。

海の水の色は遠くからみるよりもひどかった。全体てきに肌色がベースでとこのどころ黒や赤が混ざっている。プランクトンの死骸で出来る赤潮というものがあるがまさにその人間版は太平洋に出来ているのだ。

周りには僕のように捨てられた人が50人ほどいた。彼らは無言でぶかぶかと海に浮いていた。見れば黒人もいれば白人も、僕のような黄色人種もいる。

ぼくはふと『世界各地から毎日どれほどの人がここにすてられるのだろうか?』と考えた。政府の考えでは少なくとも世界全体で10億人を捨てなければならぬ。その数字はあまりにも膨大で非現実的だった。

鼻がじよじよに匂いに慣れていくのがせめてもの救いだった。なにやらもうどうでもよくなってきた。思えばくだらない人生だった。僕の人生は敗北の連続だった。学校ではうまく友達の輪にはいれず、大学を出てからはずっと働かず親のすねをかじって今まで生きてきた。いらないと判断されて当然だ。僕は人生で何も成し遂げていないし、誰かの役にたったこともない。つまり僕にはなにもつまっていない。セーブデータのはいつていないメモリーカードみたいなものだ。だから別に自分が生きていようが死んでいようがどっちでもいいのだ。

「なあ、あんた日本人だろ?」ぼんやりしていると後ろから声がした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3078i/>

人間地獄

2010年11月12日20時05分発行